

週寫眞
報

編輯部報情閣内
ンセ十・號一十六第・日九十月四

昭和十三年三月十一日 東京新聞社出版 第四千六百六十一号





國民精神總動員強化大講演會

開會之辭 横溝光昭
 國策官廳總務課長 登壇 登壇 登壇 登壇 登壇
 接授 統後の聖戦 有馬良橘
 講演 興亞大業 豐實 永沼 照閣下
 講演 實効 奉道 荒木 貞夫
 講演 今後 總動員 運動 筑紫 熊七
 講演 戦線 歸還 如 俊六 閣下
 閉會之辭 小松 東

さきに事變が勃發するや全國國民は夙に憂患報國の誠を効し克く學國一致の戰時態勢を確立して來たが、更に時局の重大な新展開に即應するに國民精神總動員運動を一層強化し物心一如の實踐運動に推し進めねばならぬ。その企畫をなすために荒木文部大臣を委員長とする國民精神總動員委員會が四月一日内閣に設けられたが、

一、 國の大理想を闡揚し東亞新秩序の建設を期す
 二、 大に國民精神を昂揚し國家總力の充實發揮を期す
 三、 一億一心各、其の業務に精勵し奉公の誠を効さむことを期すの三綱領を高く掲げて奮然しい一歩を踏み出すことになつた。

その第一號として十二日正午から東京日比谷公會堂で開かれた「國民精神總動員強化大講演會」では、平沼總理大臣を始め荒木委員長、畑陸軍大臣、國民精神總動員中央聯盟有馬會長、同族理事長が堂に登り、聴衆を前に熱辯をふるつた。

撮影 内閣情報部

忠靈塔

英魂眠る滿洲へ
 父祖 漢血の跡を弔へ

内地・朝鮮から
 往復・回遊汽車賃
 車 賃 二
 團 體 (一〇人以上) 三
 體 (三〇人以上) 五
 學生團體 五割引以上
 詳細は
 滿鐵鮮滿案内所へ
 東京丸ビル・同赤坂英町
 大阪場筋・名古屋廣小路
 門司松原前・下關驛前
 新潟古町通

滿鐵鐵道總局



たつしやでなア……少年は今日この日わが家をあとにする。少年の家に出征軍人家族の標札が二つ、二人の兄さんが大陸に戦つてゐる。姉はそつとズボンの折り返へしを直す。兄が出征の折も姉は外套のすそをたくしてゐた。



秋田驛にわが孫をやつとの思ひでさがしあて、祖母はもう日に減。息切れをおさへて、今買つた温かい鞆を孫の手に。

土から油と旋盤へ

帝都の産業戦線に東北がおくる少年隊

雲の東北、秋田縣の高等小學校を今春果立つたばかりの元氣溢れたる少年五百八十四人は、東濱間の事變下各工場に生産補充少年隊として四月九日朝、特別仕立ての「就職列車」で生れてはじめての帝都上野驛に到着した。

これら「産業少年隊」は東京職業紹介所の総務課で募集されてきたが、時局下とはいへ就職群が特別列車で中央の軍需工場に入るのは最初のことなので、東京職業紹介所では職

員七十名が出動して、この「産業少年隊」を二重橋前に案内し先着の福島縣から入京した同じ少年少女たち二百餘名と一緒に宮城を奉拜、産業範圍を小さな胸にかたく誓つた後、日比谷公園營業室前に行進、こゝに持ち寄りてきた履物主側の人々に紹介され、ついで米井職業紹介所長の關係を新社會への門出の言葉として、それぞれの職場に向ひ、見習工業成工としての「産業少年隊」の新しい生活はこゝにはじまつた。

撮影 梅本忠男
古賀乾一



春とはいへ後害はまだ寒々と鎮守の森に残つてゐる。小學校時代の先生を先頭に報告と祈願に詣でる。少年の心は戦場に出る思い。



もうこの村、この山河ともお別れた。一塊の上にも泣々とした感傷、懐かしい想ひがこもる。少年が野良を耕す最後の日。



上京を明後日にひかへて弟の贈着を人念にたゞむ姉の思ひは、幾歳か後立派に成人して故郷へ歸つて来る姿に走る。

土から油と旋盤へ

撮影 梅本忠男
古賀乾一

去りゆく列車を見送る内親の眼が滯い心がレールを懐つて少年を追ふ。

各目的職場を胸の白布に、今どき産業線に旅立つ「秋田県少年就農隊」秋田の空よ、故郷の土よ、さようなら！



ひた走る列車、車輪の響にも報國の希望は躍る。



撮影 加藤恭平

東京に弟一步を印す十五の春。少年が右手にしっかりと持った柿の苗木。わが家の窓へ育つたこの苗木を東京の土に再び育てよう、故郷を偲ぶよすがにしよう。

秋田の少年隊五百八十四名は八日朝六時五十六分上野驛のプラットフォームにすべりこんだ。





⇨ 求人者側に引き取られた少年たちはまづ辨當を手渡された。

⇩ 大きな感激を小さな胸に秘めて宮城奉拜。産業報國は必ず僕らの手で。

⇩ はじめての大都會、ビル街だ。うららかな日曜の朝日が小食服の少年たちを祝福してゐる。



⇩ 新らしい生活を少年にもたらす見習工、養成工の第一日、東京の第一夜はやすらかに暮れる。

撮影 加藤 恭平



土から油と旋盤へ

⇩ ……お國のために一生懸命勉強して下さい、體がすべての基ですから十分氣をつけて元氣な便りを皆さんの郷里へあけて下さい。

⇩ 日比谷公園で關係者の挨拶をきく少年たち。



護れ北の權益

北洋の略奪は明れた。漁業第一船第三隻
洋丸は漁船を襲撃する悪習の弊に堪えられぬ
羅ソ領ソノホチヌイ漁区への壯絶に付いた

撮影 内閣情報部
昭和十四年四月十三日
津軽要港同合船隊撮影

護れ北の權益

わが北洋漁業は、公海で行ふ漁業と、ソ領領海内で行ふものと二つに分けられる。天下の公海で行ふ漁業は別に他國との間にやましい問題とはならないが、他國領海内の漁業は特別の約束を必要とする。しかして、ロシア領海内での漁業に従事する権利は日露戦争の結果、ポーツマス條約によりわが國が獲得したものである。即ち、ロシア領内におけるわが漁業の根拠はポーツマス條約第十一條に規定されてをり、ポーツマス條約の存する限りわが漁業権は不滅である。革命によつて帝政ロシアがソヴェト聯邦となつてもこの點に變りはない。然しポーツマス條約第十一條の規定は簡単に漁業の基本権を規定するだけであつて、實際にこの漁業基本権を行使するには詳細な行使規定が必要となつてくるのである。この行使規定が即ち漁業條約で、その取極めに関する紛争こそ昭和三年米しは、北洋に暗雲を低迷させた原因であつた。

今その経緯を回顧してみよう

昭和三年（一九二八年）わが田中大使とカラハンとに間に調印された漁業條約は昭和十一年五月効力満期となつたので暫定取極で同年末迄條約を延長すると共に新漁業條約の交渉をモスクワで行ひ、酒匂参事官（目下在波蘭大使）とカズロウスキー（當時外部人民委員部長）との交渉が一應了つたのである。普通酒匂カズロウスキーと云はれるのがこれである。昭和十一年末、日露防共協定が締結され、疑心暗鬼のソ聯はつむじを曲げ酒匂カズロウスキー案を正式の漁業條約とする手續を執る事を拒んだ。そこで止むを得ず昭和十一年末に暫定取極を結び漁業條約を昭和十二年末迄延長した（第二回暫定取極）。昭和十二年の末になつてもソ聯は誠意を示さなかつた爲、漁業條約は締結されず又も一ヶ年の暫定取極を結んで漁業條約を昨年末迄延長し（第三回暫定取極）。其間に漁業本條約を結ぶべく我方は最善の努力をした。然しソ聯は相變らずの態度で一向妥協がなかつた。昭和十三年末の事態は従前より悪く、本條約は勿論、暫定取極さへも出来なかつたのである。それ以後の日ソ交渉は度々發表された通りで、北洋の風雲急は何回も傳へられたが、日本側の冷静な態度と條約を畫した論議折衝が効を奏して、遂に本年四月二日、第四回の暫定取極が妥結に達したのである。妥結の結果は四月四日外務省情報部から發表された通りである。

- (イ) 一九二八年の漁業條約は本年末迄有効とする
- (ロ) 特別契約漁区は後述の除外漁区四箇を除き契約を一年延長すること
- (ハ) 安定漁区に付ては後述の除外漁区を除き之を既實に出すこと、但し
 - 1 日本漁業に於て之を入手すること
 - 2 右入手漁区は五ヶ年貸付けらる
 - 3 借料は一割以上償上なし
 - 4 三月十五日ソ聯に懸置せる四ヶ箇の漁区は日本側に返還す
- (ニ) 除外漁区
 - 一 安定漁区より三十二漁区、特別漁区より四漁区、貸付期間中の漁区より一漁区合計三十七漁区を漁業條約附屬決定書甲第八條の例外として既實より除外する但し之に對しては十漁区の代漁区提供せられ内九は既實に依り五ヶ年貸付けらる
 - (ホ) 我方漁区にして期間満了に付既實に出されたる九漁区は五ヶ年の期限を以て既實とする
 - (ヘ) 貸付期間中であつた五十二漁区は引續き貸付けらる
 - (ト) 暫換率は既實



1 北洋漁業第一船隊の漁夫たちは行くぞ、行くぞとの合言葉で函館市内の漁夫通りに集まり、勢揃ひ、微笑んである。「護れ北の權益」二百兩は持つて歸る。あの方の借金は心配するな。和子の身體に氣をつけな。北洋の職士は五ヶ月間の別れに涙を流す

3 乗込みだ。「兄弟！今年の一書乗りは俺らだ。本船一番乗りを贈ふ漁夫たち、心は躍る北の海へ行け！ 護れ！ 北洋の權益を、

4 美しい漁夫は猿の如く第三雲洋丸に立ち登る

5 万歳！ 万歳！ 送る者、送られる者の感激は高まつた。大日本帝國のためにわれ等の生活のために、出港だ！ 吹き鳴らす汽笛の音は駒ヶ岳、臥牛山の群雲に響け込み十日夕暮れ第一船の出港式は暮けられた

7 漁夫は查察未済のため十日から十二日まで三日間を港外で仮泊した。つれづれのまきらひに沖賣娘のキヤラメルを飛ばれば、故郷に送した吾子を思ふ



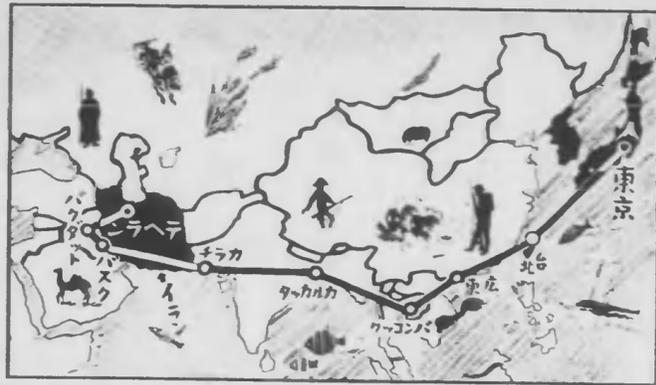
即ち従來の所謂安定漁区は既に満期に達してゐるのでこれを既實に出す點に置いてソ聯側の主張を認め、除外漁区の外、全部これを日本側に於て既實し且つ五ヶ年間の漁区安定を得、又除外漁区に付ては二十七箇を既實しないこととしたが、尙約三百六十漁区を經營し得るのである。今次交渉の結果我方に於て總數約三百六十漁区を獲得し、其内二百六十四漁区の五ヶ年安定を見るに至つたわけである。

日本には條約上の權利を飽くまで擁護する堅い決心があり、又日本漁業家は北洋漁業の傳統を愛護し、勇敢である。もしソ聯が横車を押し通して暫定取極も出来ないとなると本年は北洋にどんな不詳事が勃發するかとあやぶまれた最後の一步手前で妥結が出来た。北洋漁業本年度送込み第一船、第三雲洋丸は四月十二日午後九時三十分、勇躍函館港を出帆、こゝに芽出度くわが北の權益は海國日本男子の意氣をもつて守りとほしたのである。

撮影 内閣情報部 (昭和十四年四月十三日) 津輕電報局全部檢閲済



ヘンライはぜかよそ



- 1 前日の悪天候はすっかり忘れられたやうに春らしいかに晴れた。つた帝都の空はクッキリと「そよかぜ」は浮び上った。
- 2 日本の誠意をこめたかすくしの贈りものは飛行場内郵便局で包装を了へ、さなだ紐でくわられて機内へ。
- 3 通相としてこの日最後の藤野法相は七日午後三時、朗々と「そよかぜ」命名の文を讀みあげる。
- 4 日本、イラン兩國に飾られた式場の格納庫に關係者數百名参列、雨中に祝儀をあびて出発式は七日舉行された。
- 5 改装ほゞ成つた羽田東京飛行場に「そよかぜ」は春風を切つて出発直前のエンジン調整。

イランは昔のペルシア國である。その建國は頗る古く西暦紀元前七二〇年頃に遡るが、その後幾度か變遷を経て一九二四年現皇帝レザー・シャー・パハラヴィ陛下が即位されて以來、大いに内政は改革せられ國威は揚り西南アジアの雄邦として輝かしい復興躍進を示してゐる。

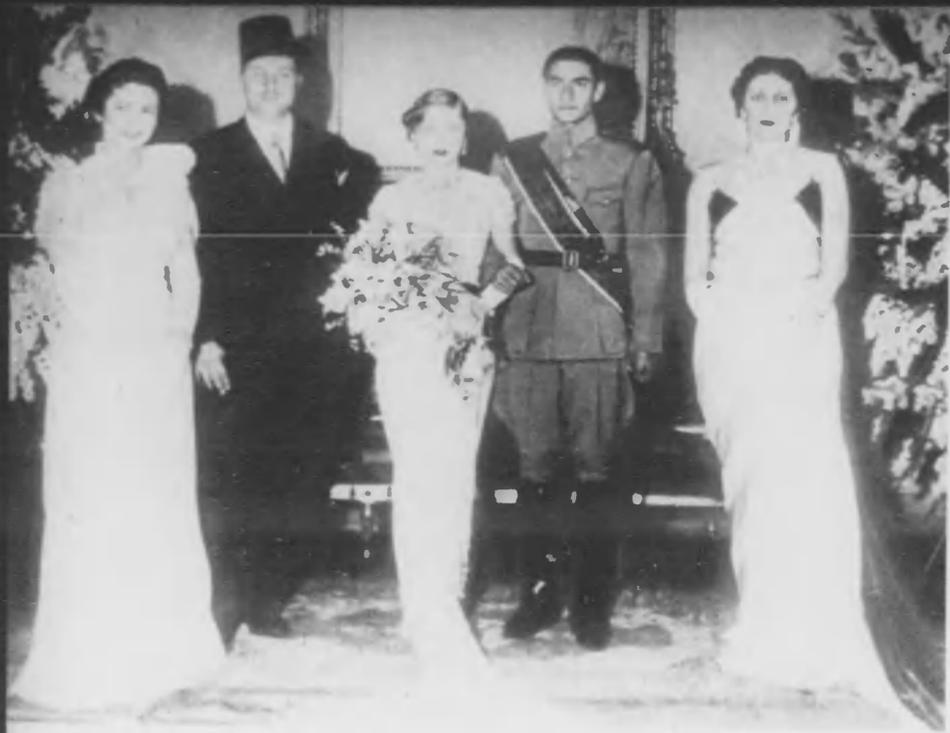
わが國はイランとの間に昭和四年通商親善取極を行ひ、次いでテヘランに公使館を開致し、兩國の國交はいよゝ親善を加へつゝある。今回トルコと共に回教諸國中の先進國たるイランとエジプトの兩皇室間に御婚儀が行はれ、古い文化を誇る兩國とわが國の親善關係が更に深められることはまことに慶賀にたへない。

来る四月廿二日、イラン國首都テヘランに舉行されるイラン國皇太子モハメッド・レザ・ハラヴィ殿下とエジプト國皇妹ファウシヤ内親王殿下の御婚儀を祝して、機程一萬二千九〇キロ、標の日本とアジアの友好親善のイランとを結ぶ翼の使節「そよかぜ」號は、長き遠りからの御贈進の御品をはじめ朝野の心こめた贈物をキツリつんで、四月九日午前七時十三分、絶好の快晴にめくまれた羽田東京飛行場を離陸、喜びのテヘランまで専設親善飛行の注途についた。

これに先立ち四月七日、羽田の大日本航空株式會社第一格納庫内で盛大にその命名を並びに出発式をすませた「そよかぜ」號は九百馬力のエンジン二基を備へ航続力十時間、優秀な無電方向探知機などをもち、わが航空技術の粋をあつめた純國産の全金屬中型機である。

送業者は帝國政府代表大久保航空局長國際課長、江口海軍少佐、關岡外務事務官、永沼日航總務部長、乗組員は松井機長以下の五島人、機定によれば十層陸の上、八日目の十五日午前テヘランへ晴れの車輪を印することになつてゐる。

(送機)「第百三〇號機」(イラン國事情一参照)



三月十六日エジプト、カイロのファルーク王宮廷で御結婚あらせられたイラン國皇太子モハメッド・レザ・ハラヴィ殿下とエジプト國皇妹ファウシヤ内親王殿下。(中央)兩わきはエジプト王御夫妻。



獨逸の国防記念日

宮内省



正に文字通り電光石火エッポを併合スロヴァキアを保護領としてヒットラー總統が湧き上る市民の歡呼の嵐の中をヘルリンに歸還した日、三月十九日はドイツの「国防記念日」であった。
ウエルサイユ條約によつて國防力を殆んど全く奪はれたドイツは獨逸新黨の聖節を重なること十幾星霜、一九三五年のこの日ヒットラー總統はついに全世界に向つて再軍備の宣言を斷行したのである。いまや大ドイツ帝國の國防力は歐洲列強を誇示して遜けない。
「大ドイツ帝國萬歳」「全ドイツ國民は苦しみの日を回顧し、輝かしい將來を祝福した」

1 國防軍は感激に燃えて京々ベルリン市内を行進した。
2 營庭では日本の軍旗祭のやうに兵士がフレドリック大王當時のプロシヤ軍の服装をして最新式の機關銃と妙な對照をえがき出す。
3 ベルリン、ブラハト街には空軍の新鋭が鮮やかに着陸して市民の歡呼を浴びた。
4 戦車も亦ムストガルテンに陳列された。七五三の日の日本の子供めである。



富貴通報 昭和十三年三月二十二日 第三三三號 東京 昭和十三年四月十九日發行 第一回本報と發行 第六十一號



! 用作効薬い強
! 力淨清な全完



教養ある近代人の撰ぶ歯磨!

薬用クラブ歯磨は一般の歯磨とちがつて八つの専賣特許による殺菌劑や特殊な薬を應用した薬用歯磨です。歯や歯ぐきをどんなに強く美しくするか。又、ムシ歯や口臭や歯槽膿漏を防ぐすぐれた作用。...など御愛用になれば分る事です。



煉 半 煉

用 薬
磨 齒 ブ ラ ク



内閣印刷局印刷發行

(特許「報国」・A4特許決定はさ大の書本)